



## 幼稚な現代そろばんの誕生

中国の唐代（618～907）の末頃には、梁で五珠と一珠を分け、軸に珠を通したそろばんになっていたと思われます。

この時代の計算は、かけ算はたし算の繰り返し、わり算は引き算の繰り返しという計算方法でした。これを蟬が殻を脱ぐのにたとえて金蟬脱殻法といいます。

